

第2回平成27年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会会議録

平成26年7月2日(水)午後2時00分～

委員長

皆様、こんにちは。本日は、お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。

会議の開会に先立ちまして、傍聴の皆様にお願いがございます。お手元の傍聴要領をごらんください。「藤沢市教科用図書採択審議委員会の傍聴要領」に従い、傍聴くださることをお願いいたします。

なお、この会議は公開でございます。審議の内容につきましては、会議録作成の都合上、録音させていただきます。

それでは、藤沢市教科用図書採択審議委員会規則第5条2項の規定にあります委員の半数以上の出席要件を満たしておりますので、ただいまより第2回平成27年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会を開催いたします。

今回ご審議いただく内容は、議題1「平成27年度使用小学校用教科用図書について」です。

それでは、事務局より本日の資料について説明いただきます。お願いいたします。

事務局

それでは、まず初めに、第1回の審議委員会が終了した後、本日までの間に送付し、本日、お持ちいただきました資料について説明いたします。

初めに、県より報告されました「小学校用教科用図書調査研究の結果」です。これは、県の選定審議会のもとに置かれました調査委員会が調査研究した結果でありまして、選定審議会を経まして、県教育委員会から本市教

育委員会へと送付されましたものでございます。

次に、本審議委員会のもとに置かれました調査員によって作成されました「小学校用『調査資料』」です。これは、県の通知及び本審議委員会の方針を受けまして、学校教育に関し、十分な経験と知識を有する者のうちから、本市教育委員会教育長が調査員として各種目ごと3名から6名を任命し、調査研究した結果をまとめたものでございます。なお、今回、調査研究に携わりました調査員の氏名等につきましては、調査資料の最終ページに記載してございます。

続きまして、本審議委員会までの間にごらんいただいた資料として、2点ございます。1点目は、平成27年度使用教科用図書調査書です。これは、各小学校長が自校の教師に調査研究させたもので、各小学校長の責任のもと、県の調査研究の観点に沿って調査研究したものを簿冊としたものです。

2点目は、平成27年度使用教科用図書意見書です。これは、市民及び保護者向けに各小学校及び藤沢郵便局において教科書展示会を開催した際にいただいた意見、感想でございます。なお、サイドテーブルには、平成27年度、藤沢市で使用が予定される小学校用教科書見本が展示してあります。

以上で資料の説明は終わります。

委員長 ありがとうございます。

それでは、説明いただきました資料等につきましてご質問はございませんでしょうか。

各委員 なし。

委員長 ないようですので、議事に入ります。

 本日の次第をごらんください。まず初めに、藤沢市審議会等の会議の公開に関する要綱に基づきまして、会議録署名委員を指名いたします。

 私のほかに、吉田葉子委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

吉田（葉）委員 結構です。

委員長 では、吉田葉子委員、よろしくお願いいたします。

 それでは、ただいまより議題1「平成27年度使用小学校用教科用図書について」審議してまいります。

 今年度は、平成27年度使用小学校教科用図書の採択替えの年に当たっています。調査員がまとめました調査資料及び各小学校から提出された調査書、また、県より出されました小学校用教科用図書調査研究の結果等をもとに、種目ごとに審議を進めていきたいと思っております。

 これから審議してまいりたいと思いますが、審議の進行について何かご意見がありますでしょうか。

本橋委員 各学校で調査研究をした折には、県の調査の観点に沿って9項目を行ってきました。かなり細かい観点で研究してきました。市の調査員がまとめた調査資料は、9つの観点をもとに、大きく3つの観点到に整理がなされています。そこで、大まなめの3項目を意識しながら、それぞれのご意見をいただければいかかと思っております。

委員長 ありがとうございます。市の調査員による3つの観点、

1つ目は、編集の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容、教科・種目別の観点、2つ目は、構成・分量・装丁・表記・表現、3つ目は、本市の児童の実態や地域等の特性との関連をもとに進めてはどうかという意見ですが、いかがでしょうか。

各委員 結構です。

委員長 それでは、3点を踏まえて各委員からご意見をいただきたいと思います。

では、国語から始めます。ご意見をお願いいたします。上原委員、お願いします。

上原委員 それでは、私は、編集の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容という観点からまずお話しさせていただきます。

各教科書とも、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことこの3領域の教材と、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の教材が系統的に配列され、それぞれの学習がバランスよく行えるようになっていました。

東京書籍や学校図書、教育出版は、表紙をあけると、見開きのページを使って詩を載せています。3者とも、ページいっぱい季節感のある挿絵や写真を載せています。そこに詩が書かれています。これから国語の学習が始まるのだというわくわくした気持ちにさせられ、国語学習への関心や意欲が高まるとともに、創造力も広がる、よいページだと思います。

次に、光村図書出版ですが、学習内容の理解を助け、イメージを豊かにする挿絵や写真が随所にうまく取り入

れられていると思いました。特に物語の挿絵はお話にぴったりと合っていて、見ているだけでいろいろと考えさせられます。例えば、「ごんぎつね」や「モチモチの木」など、物語と挿絵のバランスが絶妙で、その挿絵から物語を読み取ることにもできるようになっていて、文字だけでは理解の難しいところを補っていました。また、物語の表記も、4年生の「ごんぎつね」では、「とうがらし」を「とんがらし」というように、原文のまま書いているところが、良いと思いました。また、新出漢字や難しい意味の言葉を下の段に書き出してあり、絵や言葉で説明しているところもわかりやすいところだと思いました。

委員長 ほかにございますでしょうか。吉田日登美委員。

吉田（日）委員 国語は、私たち日本人の基本です。何よりもまず、子どもたちにきちんとした国語力を身につけさせることは必要不可欠ですし、自分の意思を相手に正確に伝えることは大変重要なことだと思います。自分の考えをまとめることで、判断力、思考力、創造力、表現力が養われます。

私は、各出版社の編集の趣旨と工夫、また、内容について見ていきました。各出版社とも、話す、聞く、書く、読むが確実に身につくように工夫され、挿絵や文字の大きさなど、学年の発達段階に応じた構成になっていました。各出版社ともに、かながわ教育ビジョンの思いやる心、たくましく生きる力、社会とかかわる力と関連して構成されていた点も重要なことだと思います。

東京書籍は、学年冒頭に「国語の学習を進めよう」「国語のノートの作り方」という教材が配置され、児童の主

体的な取り組みを促し、また、言葉の力で要点をまとめ、日常生活との結びつきを感じさせました。

また、学校図書は「みんなと学ぶ 小学校国語」とし、各学年にコミュニケーションに関する小单元があり、言葉で伝え合う能力を育てようと工夫されていました。

教育出版は「ひろがる言葉 小学国語」とし、今日の社会で求められている「共に生きる力」という点を国語の中に位置づけていました。

三省堂は、「学びを広げる」と題した資料集をつけ、個に応じた学習を前提とし、必要に応じて参考にできるようにしている点に特徴が見られました。

光村図書出版は、巻末に学びのポイントがわかる「たいせつ」欄を設け、箇条書きで整理しているところに特徴が見られました。

また、各者読み物が楽しく、5年生を例にとってみますと、光村図書出版の「わらぐつの中の神様」、学校図書の「レイチェル・カーソン」、東京書籍の「注文の多い料理店」、三省堂の「さりさりと雪の降る日」、教育出版の「雪わたり」など、どれもすばらしい読み物で、児童の創造力をかき立て、学習するところに確実に心情が深まると感じました。

委員長 ほかにございますでしょうか。吉田葉子委員。

吉田（葉）委員 私自身も中学で国語を教えてきましたが、読み物教材などは、とにかく内容の理解に捉われてしまって、学習指導要領との関係で、ここで身につけたい言葉の力が何なのかということが明確でないまま進められる授業もありました。

その観点から教科書を見てみると、今回は各者ともそれぞれの工夫が感じられました。例えば、教育出版では、単元の初めに書かれている目標と目当てに言語活動が示されているところがあり、子どもたちが、ここで自分たちがどんな活動をするのか、また、どんなことを意識して学ぶのか、そういう見通しを持てる主体的な学びにつながる目当てになっていて、そういうところが大変よいと思いました。

また、学校図書の書くこと、話すこと・聞くことの単元では、その単元の学習の流れを、例えば、1材料を集める、2スピーチ原稿を書く、3練習をする、4スピーチ大会を開くといったように見やすく示されていて、教える側も学ぶ側も明確な手順を共有して、見通しを持って学びやすい工夫が見られました。

東京書籍も単元の冒頭に狙いを明記していますが、その狙いが具体的であり、また、単元の手引きに示された学習課題に取り組むことで、年間を通して多様な種類の言語活動を行うことができる仕組みになっています。さらに、「一年間の見通しを持とう」のページで、児童自身も次に身につけるべき言葉の力を自覚でき、見通しを持って主体的に学ぶ姿勢を育む工夫がわかります。

国語で身につけた言葉の力が全ての教科の言語活動の基礎となるわけですから、教える側も、学ぶ側も、身につけたい力を明確に意識して授業に向かえる、そういう工夫が大切な観点だと思って見ました。

委員長 ほかにございますでしょうか。前川委員。

前川委員 私は、編集の工夫と内容という観点からお話をしたい

と思います。

先ほどもありましたけれども、国語科の内容の1つである読むことの題材について調べてみますと、例えば、5年生ですが、東京書籍や学校図書では、「世界でいちばんやかましい音」「注文の多い料理店」「手塚治虫」「東京スカイツリーのひみつ」「まほう使いのチョコレート・ケーキ」など、楽しい題材を扱っています。児童はその題材を見た瞬間、一体どんな話なのかなと興味を持って読むことができる、そんなすてきな題材だと思いました。

三省堂も、児童に知られている筆者の作品を多く扱っています。また、資料集の「ことばのポケット」には辞書のような働きがあって、言葉に関する多くの情報が掲載され、児童が興味を持てるものだと思われました。

教育出版は、紙面に余裕があり、見やすくつくられ、児童にとって読みやすいと感じました。特に説明文では、文字を邪魔することのないよう写真の配置に工夫がされ、読み取りがしやすくなっていました。

光村図書出版は、特に物語文におきまして挿絵の挿入のバランスがよく、児童にとって場面のイメージを分けやすいものとなるよう工夫されていました。

このように、各教科書とも、児童に国語に対する興味、関心を持たせるような工夫を凝らしていると思いました。

委員長 ほかにございますでしょうか。加藤委員

加藤委員 私は、図書館指導と読書活動についてお話をしたいと思います。

今、各学校に図書館専門員と司書教諭が配置され、図書館利用、読書活動についてさまざまな取り組みが行われているところですが、言葉や知識を学ぶとか、それから感性を磨く、そして創造力を豊かにするといった読書活動、読書におきましては、この先の子どもたちが人とかかわり合いながら、コミュニケーションを図りながら学び合い、高め合う学習活動に大変助けになると考えております。各者それぞれに子どもたちに本を身近に感じさせるような工夫がとられているように思いました。

三省堂は、「図書館へ行こう」という図書館指導の教材を配置しています。ほかにも「わたしの本だな」とか「あまんさんの部屋」というコーナーを設け、また別冊の中でも、成長段階に合わせたさまざまな本を紹介しています。

そして、光村図書出版と学校図書は読み聞かせのページ設定がありました。2者ともに、巻末の資料編、ふろく編において読み聞かせの作品を載せたり、本の紹介をしたり、さまざまな読書活動の充実を図っているように感じられました。

光村図書出版は、教材ごとに関連本の紹介コーナーを設けているんですけども、それぞれの巻末で2ページから4ページにわたり本を紹介しています。あと、各学年の読書単元の「本は友達」で、読書活動と物語教材をスリーステップという形で上手に結び合わせています。これは子どもたちの主体的な学習につながるように思われます。

そしてもう1つ、分量、装丁について見てみました。全学年上下巻2冊の分冊になっているのが学校図書、教

育図書、それから、5、6年生のみ上下合冊となっているのが東京書籍、光村図書出版、2年生以降は全て上下合冊で、別冊資料集をつけているのが三省堂でした。上下分冊か合冊かについては意見の分かれるところだと思わんですが、重さの点から考えると、毎日ランドセルに教科書を入れて持ち歩く低学年、中学年の子どもたちにとっては分冊のほうがよいかなと考えます。5、6年生につきましては、合冊のメリットである学習の振り返りができる、そちらを優先するとするならば上下合冊でもよいのかなというように感じました。

委員長 ほかにございますでしょうか。佐藤誠委員。

佐藤（誠）委員 まず、編集の趣旨と工夫等につきましては、各出版社ともに、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの3領域についての学習内容がバランスよく配置されている上、1年生から6年生へと発達段階に応じて興味、関心を持って学習に取り組めるように内容が工夫されている点と、児童が主体的に学び、思考力、判断力、表現力を身につけていくことができるように、見通しを持った学習を行える工夫がなされている点が各者とも非常によいと思いました。

また、表記、表現等につきましては、東京書籍、三省堂、光村図書出版は、低学年の教科書の文字が多少大きく書かれていまして、わかりやすいと感じました。さらに、光村図書出版の場合は、挿絵の大きさやバランス、色合いがよくて、本文中の漢字表記も学習済みの漢字のみを用いている、その点がよいと思いました。

全ての出版社に共通して掲載されている文学教材「大

造じいさんとガン」でも、光村図書出版のみ前書きが書かれています。この前書きは原文にはもともとあるもので、この部分から、大造じいさんの人物像や、狩りの名人であったことや、本文は、大造じいさんが30代の血気盛んなころの話であることなどがわかり、児童が抱く物語のイメージがより原文に忠実で鮮明なものになるのではないかと考えます。

最後に、本市の児童の実態や地域等の特性との関連につきましても、光村図書出版の場合、以前から藤沢市で使われていた教科書であるため、なじみのある物語文や説明文などが多数掲載されており、親子が話し合いをするためのきっかけとなり得る点は大変意味のあることではないかと思いました。

委員長 ほかにご意見はございますでしょうか。

では、国語を終えて、書写に移りたいと思います。ご意見をお願いいたします。吉田葉子委員。

吉田（葉）委員 書写の教科書では、どの教科書も、低学年においては文字を書く上での基本がきちんと押さえられている点が良いと思いました。また、毛筆の学習においても、発達段階に応じて系統的に編集されているという点で、各者、大変甲乙をつけがたいように思いました。また、どの教科書も各単元に目標が示してあり、その最後に、自分で自分の学びを振り返るチェック欄があるという点が、共通して次につながる主体的な学びの姿勢をつくる上でも大変よいことだと思いました。

低学年では、児童が一層興味が持てるように、学校図書、東京書籍の2者はシールを活用していましたし、高

学年においては、東京書籍、教育出版の2者が到達度に段階をつけて自分の学びを振り返るチェック欄がある、そういうのも工夫があってよいと思いました。

表記の面で各者を見てみますと、特に毛筆のお手本にそれぞれの特徴があるように思いましたが、特に日本文教出版や教育出版の文字が大変大きく見やすく、そのままお手本として使いやすいように思いました。

また、硬筆などで教科書に直接書き込むという点からレイアウトを見てみますと、光村図書出版が色遣いを押さえ、ゆとりある構成で、全体的にすっきりとしていて、児童が集中して作業に取り組めるように感じます。

発展的な内容についても各者取り上げていましたが、三省堂の高学年の内容が日常生活や他教科とのつながりで活用例が多く、字を書くことの大切さや日常とのつながりが意識できる、そんな内容になっているなと感じました。

委員長 ほかにございますでしょうか。では、高平委員。

高平委員 どの教科書もとても明るく、楽しい工夫がありました。その中で印象に残った教科書について報告させていただきます。

まず教育出版ですが、1年生の字の練習では、一升を4つに分けて、1、2、3、4とあらわしています。字の書き始めを1の升から、点は3の升などとわかりやすく、とてもイメージしやすい点がよかったですと思います。これは、点や丸、かぎの位置などの書き方にもつながっていくと思いました。

続いて、日本文教出版ですが、指でなぞり練習するの

ですが、大きく示されているので、なぞりの練習がしやすいと思えました。また、2年生で年賀状、説明文、3年生で手紙、作文の書き方などと、学年の段階を踏んで発展していくのがよいと思えました。6年生ではメモのとり方などもありまして、学校の中だけではなく、日常の中で書くということ意識づけられるとてもよい教科書だと思えました。

委員長 ほかにご意見はございますでしょうか。小泉委員。

小泉委員 私も吉田葉子委員と同様に、どの教科書も発達段階に
応じていて、系統的に編集されていると感じました。基礎、基本を定着させる上で系統的に学習させていくことはとても大切です。それに加えて、子どもたちがいかに主体的に学ぶ学習を展開させていくか、そこが重要であると考えます。

教育出版では、学習の内容や手順を明確に示してありました。「考えよう」「ここが大切」「生かそう」「ふり返ろう」と、子どもたちにわかりやすい言葉やマークで構成されており、児童にとっては学習の流れを理解しやすく、意欲的に取り組むことができると思えました。基礎、基本の確実な習得につながると思います。

光村図書出版においても同様に、児童が主体的に学習できる流れを基本とし、工夫された構成となっていました。

別の視点からになりますが、東京書籍では、毛筆の題材として、きずなやふれあい、そして固い友情を取り上げておりました。その言葉の意味から、ともに生きる態度の育みにつながると感じました。

また、別な視点ですが、各者とも手紙の書き方やメモのとり方などを取り上げ、教材化していました。書写での学びが他教科の学習や日常生活に広がる大変効果的な学習になると思います。

光村図書出版においては、見開きで手紙の書き方を掲載してありました。縦書きと横書きの比較も一目ででき、大変わかりやすく、使いやすかったです。

委員長 ほかにご意見はございますでしょうか。本橋委員。

本橋委員 私のほうからは、内容構成、それから表記、表現を中心に述べさせていただきたいと思います。

その中で、光村図書の教科書ですけれども、鉛筆や筆の持ち方、姿勢、そういったものが写真や絵を用いて丁寧に押さえられているというところ、硬筆では、お手本のほかに直接教科書に書き込む練習部分が多く設けられていて、学習帳としての性格も大切にしているところが特徴と言えるところだと思います。

また、資料ページでは、はがきの書き方ですとか原稿用紙の書き方、新聞の書き方など、学年に応じた例示や、それからポイントが押さえられておりまして、大変扱いやすいように思いました。特に高学年では他教科との関連も意識されており、資料ページが充実しているなど実感いたしました。児童が発達段階に応じて正しく文字を書くこと、それらを習得できる内容構成になっていると思います。

また、教育出版の教科書のほうも、鉛筆ですとか筆の持ち方、姿勢、そういったものを写真、絵を用いて押さえられており、3年生以上では学習の進め方が示されて、こ

ちらは、児童が学習上の留意点に当たるところをあらかじめつかんで学びを進めていくということで、大変有効であると思います。「トライあんどチャレンジ」ですとか、「知りたい 文字の世界」などのページは、日常生活と文字や書くこととの関連を図っていて、文字への関心が持てるようになっていくところが大変好ましい点だと思います。また、イラストと写真の割合が学年により異なりまして、児童の発達段階を意識した配分が見られるところもよい点だと思います。ページ構成にまとまりがあるというところは、特によかったなと言えます。

三省堂の教科書のほうも、鉛筆や筆の持ち方、姿勢を、こちらは絵を用いて丁寧に押さえていました。筆記具の取り扱いについても適切に扱っています。各学年を通して直接書き込めるページが多いことが特徴と言えらると思います。ページ構成にまとまりがありまして、落ちついて正しい文字の練習に取り組める教科書として仕上がっていると言えるかなと思いました。

3者とも、3年生以上では硬筆と毛筆の教材例に関連性を持たせたページ構成になっていて、毛筆では筆の運びがつかみやすい写真と言葉であらわされているところが大変よいと思いました。

委員長 ほかにございますでしょうか。それでは、ご意見がないようですので、書写を終えて、社会に移りたいと思います。

それでは、ご意見をお願いいたします。高谷委員。

高谷委員 私は、各教科書の構成や表記についてお話しさせていただきます。

まず、光村図書の教科書ですが、5、6年生は重厚な1冊のつくりにしてあります。上下巻で構成された他者とは一線を画しています。これは、1冊にすることによりすぐに学習の振り返りを行うことができます。また、単元の最初には見開きで大きな写真が使われており、行間も広く、字も大きく、印象的でした。

次に、日本文教出版ですが、「学び方・調べ方コーナー」があり、導入、学習、まとめ、それと発展的な主体的な問題解決学習と、学習の手順がわかりやすく表記されています。単元の最後には「大きくジャンプ」という発展的なまとめがあり、子どもが興味を持ち、主体的に取り組めそうな感じがしました。また、イラストが細かく精巧に描かれており、とても充実していました。

次に、東京書籍ですが、薄いスリムな教科書ながら、豊富な教材、資料が十分に掲載されています。子どもに人気のある「ドラえもん」のキャラクターを各学年で効果的に登場させ、アクセントにしています。各学年の大きなイラストでは、そこからさまざまなことが発見できるような工夫がされていました。資料には番号がついてあり、子どもにもわかりやすく、先生にも指導しやすい印象を受けました。

最後に、教育出版ですが、全体を通して中間色を巧みに使った穏やかな色遣いで、落ちついた印象を受けました。写真も大きく、資料の配列もよく、行間も広くとってあり、とても見やすく思いました。また、学習の流れもわかりやすく表記され、大事なところでは、人物のイラストの吹き出しを効果的に使い、児童にとってとてもわかりやすいものになっていました。

委員長 ほかにいかがでしょうか。本橋委員。

本橋委員 私のほうからは、主に編集の趣旨と工夫、それから学習指導要領との関連及び内容から述べさせていただきたいと思います。

各者それぞれの教科書の中で、学習指導要領の趣旨を踏まえて編集がなされておりました。そういう中で、東京書籍の教科書につきましては、問題解決の学習過程をつかむ、調べる、まとめる、そして生かすという言葉であらわしまして、学習の見通しを持てるように工夫がなされておりました。

また、調べ方やまとめ方の例示がなされておまして、学び方を学べるようになっていくことが特徴であると思います。そして、作業的、体験的な活動も適切に取り上げています。図表、写真等の資料も見やすく配置されておりまして、資料のデータも新しいものが載せられておりますので、学習を進めるに当たりまして適切であると言えます。

また、教育出版の教科書では、先ほど申し上げましたが、問題解決の学習過程というものを、つかむ、調べる、まとめる、そして深めるという言葉であらわしております。この深めるの活動では、表現し合う活動が主に示されているというところです。見開きのページごとに、学習課題ですとか学習活動の流れがつかめて、児童が自主的に活動に入れる構成であると言えます。学習段階ごとの調べ方の例示では、学習の仕方を身につける上で大変有効でありまして、作業的、体験的活動も適切に取り上げられていると感じております。特に3、4年の学習単元で、事例となる地域に神奈川県や横浜市が取

り上げられております。また、先人の働きでは、藤沢に馴染みのあります小笠原東陽が取り上げられています。児童が学習を進めるに当たりまして、イメージを膨らませたり、直接の学習対象として扱ったりすることができる点も利点であると思います。また、東京書籍の教科書と同様に、図表ですとか写真等の資料も見やすく配置され、資料のデータも新しいものが載せられているということは、学習を進めるに当たって好ましいと捉えております。

その他の点で見てもみますと、東京書籍では「まなび方コーナー」、教育出版では「わくわく！社会科ガイド」というように、学習を進めていく上で必要なスキルについて押さえられているところも注目できる点かなと思います。

委員長 ほかにご意見はございますでしょうか。佐藤誠委員。

佐藤（誠）委員 私は、構成、それから表記、表現について述べさせていただきます。

各出版社ともに写真や地図が多く用いられていて、児童にとっては大変イメージしやすく、理解しやすいように工夫されていて、よいなと思いました。

日本文教出版では、3、4年生の「わたしたちの暮らしとまちではたらく人びと」の単元で、スーパーマーケットの見学に際し、予想、見て調べること、聞いて調べること、調べ方、注意点など、計画を立てる上でわかりやすく使いやすい工夫がなされていると思いました。また、「大きくジャンプ」というコーナーが設けられ、地域を超えた助け合いで東日本大震災のことに触れたり、

昔の子どもの遊びと暮らしで駄菓子屋さんのことを取り上げたり、日本の海底資源や近代日本と富岡製糸場の話題に触れたり、発展教材として、児童が関心を持って主体的に学習できるようによく工夫がなされていると感じました。

また、教育出版につきましては、3、4年生の「わたしたちのまちから市へ」の学習で、絵地図づくりを通して地図の見方の基本を学び、その後、市の地図を読む学習へと進んだり、学校の消防設備調べから地域の消防施設の学習へと進むなど、どの学年でも児童の学習が自然に広がっていくように工夫して編集されていると思いました。さらに、「昔の道具と暮らし」の学習では、年表づくりや昔探しマップづくりなど、見るだけでわくわくするような教材例が多く配置されていると思いました。

東日本大震災については、5年生の「食料生産を支える人々」の中で、農業や水産業への影響、復興への努力についての記述があり、6年生の「暮らしの中の政治」では、避難所、物資の運搬、ボランティアなどの応援のことについて詳しく記載されていて、児童にとっては、社会の学習がより身近で生活に結びついていることが実感できるように工夫されていると感じました。

委員長 ほかにご意見はございますでしょうか。吉田日登美委員。

吉田（日）委員 国際化社会の中で、日本人として世界に通じるためのグローバルな力を社会科学習を通して本市の子どもたちに培うとしたらということで、編集の趣旨、工夫という点で教科書を見比べました。

各出版社ともに、子どもたちに社会科の基礎、基本を身につけさせる教科書づくりを行っています。

教育出版では、初めて社会科学習を行う3年生に、生活科からのつながりを大事にし、教科書の使い方や各単元の終わりに、まとめる、深めるなどのコーナーを設け、学習内容の確実な定着を図り、社会科への導入がスムーズにいくように工夫されていました。

また、児童が自分で問題を解決しながら学習を進めていかれるよう、「まなび方コーナー」を設けた東京書籍や、「学習問題をつくり、学習の見通しを立てよう」とした教育出版の構成にも目を引かれました。

また、各出版社とも多数の写真、絵、図表などを用い、具体的によりわかりやすく構成されていました。特に教育出版の「昔の道具とくらし」では、釜や洗濯板など、実際に使われていたものを表示し、児童の興味、関心を引きつけると同時に、昔への創造力をかき立てていたと思います。

他出版社は上下分冊にしておりましたが、光村図書出版だけは、5年生1冊、6年生1冊ということで、振り返り学習が行いやすくなっていました。先ほどもそんなお話が出ていたと思うのですが、ちょっと重いのが難点かなと思います。高学年なのでその辺は頑張ってもらいたいと思っています。

委員長 ほかにございますでしょうか。倉委員。

倉委員 本市の児童の実態や地域の特性との関連の観点からお話しします。

社会科は、日本の国土や歴史、あるいは地域などを具

体的に調べる活動を通して学習を進める教科です。児童が主体的に取り組めるよう各者とも工夫がされていると思いました。取り上げる資料や場所なども児童が身近なものの方が興味、関心を高めることができると思います。

その点で言うと、東京書籍は、5年の「高い土地のくらし」で、長野県川上村、南牧村を取り上げています。ここは藤沢市の八ヶ岳体験教室があるところで、5年生には非常に馴染みのあるところです。

また、光村図書出版は、4年の「わたしたちの県」で神奈川県を取り上げ、藤沢市の江の島が出てきます。5年の「くらしを支える自動車工業」では、追浜の日産工場を取り上げています。

また、教育出版では、3年の「わたしたちの市のようす」でお隣の横浜市を取り上げています。4年の「昔から今へと続くまちづくり」で、先ほど本橋委員からもありましたが、地域に学校を開いた小笠原東陽の話は2ページにわたって取り上げています。また、5年生の「自然条件と人々のくらし」で野辺山原を取り上げています。自分たちが暮らす地域となじみがあるところが教科書に載っている、そうすると、子どもたちの関心も高まって意欲的に授業に臨めるのではないかと思いました。

委員長 ほかにご意見はございますでしょうか。

では、社会を終えて、地図に移りたいと思います。ご意見をお願いいたします。高谷委員。

高谷委員 今回、地図帳は、東京書籍と帝国書院の2者が地図帳を製作してくれましたが、それぞれ製作意図がしっかり

反映されていて、とても感心しました。

まず、東京書籍ですが、比較的大き目のA4判の大きさで、児童の立場に立ち、見やすさ、使いやすさ、わかりやすさを重視していました。児童が地図を好きになるよう、児童が興味を持ちそうな資料や写真をふんだんに使用していました。例えば、世界の山の高さを比べる図表でも、山をグラフィックに表現して、その山のイメージがつきやすいように工夫されていました。また、防災関係では、日本の周りのプレートを立体的に描き、実にイメージしやすいグラフィックでした。統計資料も、子どもが興味を持ちそうな項目に限定することによってスペースを確保し、見やすくしていました。また、行に色をつけたり、字の大きさをそろえたりするなど、見やすくする工夫が随所にされていました。子どもたちが地図学習に興味を持ち、暇なときに、ちょっと地図帳でも見てもよいかと思わせる読み物としての地図帳をイメージした編集になっていたと思います。

次に、帝国書院ですが、こちらは社会科学習の資料という色合いが強く、大きさも少し小ぶり、社会の教科書やノートと一緒に机の上に置いても邪魔にならないような大きさでした。3年間資料として何回も使用しても大丈夫なように、表紙には特殊な加工をされた丈夫な紙が使われ、また、とじ込みの折り目にはコーティングがしてあり、破れないような工夫がされていました。資料として資料活用能力が身につくように、日本国勢図会のようなさまざまな資料が細かい字でぎっしりと詰め込まれていました。世界の主だった国の挨拶の言葉を載せたり、アメリカの州には英語表記を載せたり、これからの外国語学習や英語学習に役立つような工夫もされていました。

た。

世界地図では、地勢を中心とした地図と国や州をわかりやすく表記したものの双方を載せることにより、さまざまな指導の場面で対応できるように工夫されていました。索引も詳しく、その地名にかかわる情報も豊富で、資料としての地図帳というものに十分なものでした。

委員長 ほかにご意見はございますでしょうか。菅委員。

菅委員 小学校では4年生から地図が始まります。中学校での地図帳の活用という点から、2つの出版社の地図帳を述べさせていただきます。

中学の地図帳では、日本だけではなく、外国という広い世界に視野が移っています。小学校の地図帳では、最初に日本の姿を知ることが大事だと考えます。つまり藤沢の隣には茅ヶ崎市があり、上には大和市があり、そして隣に綾瀬市、そして東側に横浜市があるという互いの位置関係をしっかりと学んでいくことが大事と思い、その視点で検討させていただきました。

東京書籍ですが、最初に、海に囲まれた日本の姿があります。それを海底図とあわせ、立体的に日本の姿を示してくれています。九州から地図を北海道方面に見ていきますと、文字の大きさの違いから各市町村の人口の割合がよくわかります。そして、最後のページには、日本は地震国、火山国でもあり、自然災害についてわかりやすく示されています。

帝国書院の地図は、野外体験教室があります長野県を見ますと、標高が高くなれば色が濃くなっていきます。しかし、そこにどのような割合で平地があるのかわかり

ません。平地を緑で塗ることで平らな部分があることがわかり、そこで農作物が育成されていることが理解できると思います。また、文字は全て同じくされて見やすくなっていますので、隣の町がどこかと位置関係をしっかりと知ることができます。後ろの索引で市町村を知るときも、藤沢ではなく藤沢市とわかりやすくなっており、大丈夫かなと心配される子どもたちにも探しやすいと思います。最後に、中部地方の地図を見ますと、野辺山だけの地図があります。野外体験教室がある藤沢の子どもたちには親近感があるのではないかと思います。

委員長 ほかにご意見はございますでしょうか。本橋委員。

本橋委員 東京書籍と帝国書院の2社の地図帳ということで、まず東京書籍の地図帳のほうからお話をさせていただきます。なお、主に編集の趣旨と工夫、内容といったところでお話をさせていただきたいと思います。

東京書籍のほうですと、今、菅委員が触れた部分ですけども、巻頭の見開きの日本の姿のところのページの構成というのが子どもたちにとって大変インパクトがあり、そしてかつ、地形の様子が大変わかりやすく、見やすいものになっているということで、この部分は本当に特徴が出ているなというところですよ。

それから、地図帳の扱い方につきましても大変丁寧に押さえられていまして、各地図でキャラクターのセリフによって主体的な学習が進められるような配慮がなされていると感じます。また、各地図の縮尺を物差しの絵に例えて表示がなされておりまして、それに注釈を加えるなどして、距離をつかみやすいような工夫もなされてい

ました。一方、地球儀の使い方ですとか、活用の仕方におきましても写真入りで大変わかりやすいページ構成になっているなど感じております。全体的に見ますと、地形の表現の色分けが大変目に優しい感じを与えます。そして、児童が社会科をはじめ、さまざまな学習において活用できるような地図帳であると思います。

帝国書院の地図ですけれども、各地図の地形表現、陸の高さが鮮明な色分けになっているということで、高低差が大変つかみやすいというところが特徴かと思えます。日本の地図の学習に関連しましては、都道府県の区分が最初の見開きのページにわかりやすく示されておりまして、地図の成り立ちですとか約束事のページでは、表現上の特性ですとか、あるいは地図記号といったものにつきまして子どもたちに非常にわかりやすい丁寧な扱いになっていると言えます。一方、世界のほうに目を向けますと、世界地図のほうでは、6年生の学習とも関連しますけれども、代表的な国々の文化を写真や文で解説しているというところで、学習資料として大変使いやすいような配慮がなされていると思います。

ほかに、地球儀の基本的な見方ですとか、使い方におきましては、児童の学習活動を誘発するような問いかけで、各地図に配されたキャラクターのせりふを生かして、児童が探求的、発展的な学習を進めることができるように工夫されていると受けとめております。

折り込みページのほうでは防災マップづくりといった活動も紹介されておりまして、発展的な学習としても十分使えるかと思えますし、体験活動という視点から見ても興味深い取り上げ方と言えらると思います。

委員長

ほかにご意見はございますでしょうか。

では、地図を終えて、算数に移りたいと思います。では、算数へのご意見をお願いいたします。吉田葉子委員。

吉田（葉）委員 編集の趣旨と工夫、学習指導要領との関連という観点から申し上げます。

この観点から、どの教科書も子どもたちが見通しを持って、自ら進んで学習に取り組むことができるような工夫が凝らされており、また、子どもたちの興味や関心を引く工夫も多く見られました。

中でも教育出版の教科書では、授業開きの教材として「算数ワールド」のほか、多くのコラム的な囲み課題があって、導入時から子どもたちが興味を持って多様な算数的活動に取り組むことができるのではないかと思いました。また、そこには日常生活と算数の結びつきを感じることができるような工夫も多く見られました。また、ノートづくりについても各者それぞれに触れているのですが、教育出版では、友達のノートを互いに見合っって意見を交換するという話し合い活動が取り入れられ、互いに高め合っって学び方を定着させていくということも興味深いと思いました。

ノートづくりという点からいくと、東京書籍も全学年でノートづくりについて扱っていて、ノートづくりが主体的な学びや思考力、判断力の育成につながるよう工夫されています。また、練習問題の難易度の段階や学び直しができる振り返りのページなどがわかりやすく、家庭学習をする上でも取り組みやすいように思いました。

中学校につながっていく上でも、小学校の早い時期から、こうして自分自身の学び方を身につけて学習習慣を

定着させていくということは大切な観点だと思います。

委員長 ほかにございますでしょうか。小泉委員。

小泉委員 編集の趣旨という点から、私もノートづくりについて、次の3者について述べさせていただきます。

東京書籍では、「算数マイノートをつくろう」というページが設けてありまして、自分の考えや友達の考え、そして学習感想などを書く活動が示されていきました。学校では、友達の考えを、自分自身の考えを出し合いながら授業を展開していきませんが、互いに高め合う上でも、そして表現力を高める上でも効果的なノート指導が必要であると考えます。また、考えや思いを継続して書きとめていくことで言語活動の充実を図っていくこともできると思いました。

日本文教出版においても、「算数ノートをつくろう」を設け、ノートの例、そしてノートをとるにあたってのポイントとして目当てや見通し、考え、メモ、まとめなどをわかりやすく示してありました。

大日本図書では、全学年とも合冊となっていて、教科書巻頭に問題解決学習の流れをノートの例と対応させながら示してありました。学習の進め方としては、問題の意味をつかむことから始まり、振り返りまで流れが明確に示されていて、子どもたちの主体的な学習態度を養うことができると思いました。

委員長 ほかにございますでしょうか。天利委員。

天利委員 私のほうからは、算数については積み重ねがとても重

要な教科となると思うんですけれども、ちょっとしたことでつまずきやすい支援の必要な子どもというのが結構教室にはいると思うんですね。そういう子どもたちにとってはとても厳しい難しい教科になるのではないかと考えています。

どの子ども自分で学び直しができたり、基礎・基本の定着に向けて主体的に取り組める教科書がいいなと思うんですが、そういった視点で、構成や表記、表現についてちょっと見てみました。

どの教科書も内容、構成がとても工夫されていて、例えば、算数の問題があったとしてもその問題を囲うことでそこに集中しやすくするとか、それから目当てとか、まとめという部分も色を変えてみたりとか、囲ってみたりということ、内容においても今まで以上にとてもわかりやすい構成になっているなと思っています。特に、今はほかの教科書でもA B判という幅の広い教科書がふえてきていると思うんですけれども、算数においてもそれを使っているのが日本文教出版なんです。空間ができるので、その右側をうまく利用して学習の流れとかヒントがそこに示されるように工夫されているので、自分でつまずいたときに、右側を見てそこをもう1回学び直しをしようというふうに工夫ができるようになっているのかなと思いました。

また、啓林館なんですけれども、言葉だけで理解するのは難しい子のために、本当にたくさんのイラストとか写真を使っているんですけれども、そのイラストや写真も言葉も合わせてつけ加えていることでよりわかりやすい工夫がされているのかなと思いました。

あと最後に、学校図書なんですけれども、サポートと

いうページをつくっています。これは、発展させるためのページというよりも、つまずきやすい子どもへのスモールステップの問題提示がされていて、とてもいいなと思いました。特にこのスモールステップの問題が興味を持って何かおもしろそうという感じで取り組めるような教材を使っているので、これをうまく活用することで、支援の必要な子なんかにとってもより学習の定着を図ることができるという意味では非常に有効なのかなと思いました。

委員長 ほかにございますでしょうか。菅委員。

菅委員 中学校では、数学で学んだことを理科などで多く使われることがあります。先ほど天利委員が言いましたように、積み重ね、特に1年生のところで比例を行うと、2年生になると一次関数になり、そして3年生へ行くと二次関数へと移っていきます。比例が難しく感じてしまうと、3年生のときの二次関数はどうなるんだとなってしまいます。そうなりますと、子どもたちの意欲、そして主体的に学べるかという視点で見させていただきました。

まず、東京書籍ですが、巻末に補充の問題などがあり、自ら学んでいける学びやすい構成になります。同じく吉田葉子委員からもありましたように、ノートづくりについても記載があり、自分の考え、友達の考えなどを書き込み、振り返りをする態度を養うことができると思います。

続いて、学校図書についてですが、絵や写真が美しく、子どもたちの学ぼうとする意欲を高めさせる工夫がされ

ていると思います。数字を扱う中で、実生活との結びつき、家庭では子どもの算数に関しての関心が高いと思います。日常生活から教材を導入していることを大きく評価したいと思います。

中学校への接続として、6年生に別冊が用意されています。その中に、文字式を学ぶ前の課題として、年齢を当てる問題があります。内容的には簡単なことなのですが、意図的に難しくさせて考えさせている問題になっています。特に中学校でも使える教材ではないかと思いません。

最後に、教育出版ですが、教科書に何人かの子どもたちを登場させています。登場人物にそれぞれの考えを示させ、子どもたちが主体的に学びを実現させようとする工夫がされています。藤沢の中学校の何校かでも自己肯定感の向上を目指して取り組んでいる学校があります。先ほど吉田葉子委員も言いましたように、学び合い、友と一緒に解決し、喜びを味わえる提示設計になっているんじゃないかなと思います。

委員長 ほかにご意見はございますでしょうか。前川委員。

前川委員 算数は、児童が苦手意識を持ちやすい教科の1つだと思います。

教育出版は、単元の導入に「どんな学習が始まるのかな」があります。既習事項を活用し、考える場面を設定し、つまずきがちな児童への支援になると思われれます。また、各単元の最後に活用問題を載せています。先ほど吉田葉子委員がお話しされましたけれども、これは学習したことをすぐに実生活に活用することで算数を学ぶよ

さを実感することができます。

啓林館は、子どもたち同士がコミュニケーションを図りながら主体的に学習が進められるようなコーナー、さらに一步進めて、自宅学習ができ、授業時間外にも取り組めるような学習教材を巻末に掲載するなど、さまざまな児童への配慮が見られます。また、違う見方なんですけれども、学習意欲の向上や学習習慣が確立できるよう、初めのページに「保護者の方へ」を掲載しています。

教育出版も、それから啓林館も、児童自ら学ぶ楽しさを感じるこのことのできる教科書だなと思いました。

委員長 ほかにありますでしょうか。上原委員。

上原委員 学習指導要領との関連という点からお話をします。

算数では、算数的活動ということが大変重視されております。学習指導要領の最初の目標に、算数的活動を通して基礎的・基本的な技能を身につけだとか、算数的活動を通して進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てるというように、目標の最初に算数的活動ということが明示されています。

この観点で教科書を見てみますと、各者とも課題に対して式や図を使って考えたり、説明したりする算数的活動を明確にして取り入れていると思います。その意味で、各者が扱っている巻末のミッション教材というのは、切り取って活動できる教材という点で、算数的活動がしやすい工夫がなされていると思います。

また、教育出版では、6年生の教材ですが、円の面積の学習の際、半径10センチという大きな円ですけれども、その円が実寸大で見開きに書いてあります。これを

使って児童は円の面積を考えていくことができますので、子どもにとって大変活動がしやすく、使いやすい工夫ではないかと思えます。

また、巻末教材では、敷き詰めに使う図形があるのですけれど、裏表の色を変えて、切り取ったときに両面が使えるように工夫されています。これも児童の活動がしやすい工夫の1つだと思えます。

大日本図書も、巻末教材は、5年生、6年生の教材で、立体の体積を求める際の説明に使用できるような立体図形を切り取りのできるような教材として、付けております。これなども算数的活動がしやすく、学びの手助けとなるように考えられているよい工夫ではないかと思えます。

東京書籍についてですが、ここの巻末教材もよく工夫されており、例えば、「1年生 数のならべかたしらべ」は、ビンゴカードのようなカードを用いていて、1年生でも数の並べ方を考えやすい工夫がされています。また、単元をとおして使用できるような位取りのカードを切り取って使うような工夫もされていました。

また、続けて東京書籍についてですけれども、課題と問題の解き方を示すページが裏表になっていて、考え方がすぐに見えないような工夫がされていました。これは、児童の思考の邪魔にならないように、教科書を見ながらじっくり考えることができるように配慮されているということを感じました。また、ノート指導も丁寧に取り上げられていますので、児童にとって使いやすい構成となっているかなと思えました。

委員長

ほかにご意見はございますでしょうか。

国語から算数まで5種目が終わりました。あと6種目ございますが、始まって1時間たちましたので、ここで休憩をとりたいと思います。今、3時10分ですので、10分間、3時20分より再開したいと思いますので、休憩といたします。

午後3時10分休憩

午後3時20分再開

委員長 そろそろ再開いたしたいと思います。

初めに、佐藤優子委員は所用のために退席いたしましたので、ご報告いたします。

では、算数まで終わりましたので、理科に移りたいと思います。ご意見をお願いいたします。高谷委員。

高谷委員 私は、各教科書の編集の趣旨と工夫という観点からお話しさせていただきたいと思います。

まず、全体に言えることは、各者とも、理科の教科書にはこれが大事だというしっかりとした独自の理念を持ち教科書を編集されていて、大変感心しました。

まず、東京書籍ですが、この教科書は、いわゆる理科という教科の学び方について力を入れています。全ての単元で児童の学習活動を大きく提示することにより、理科的な論理的な考え方が自然に身につくように構成されています。

次に、大日本図書 of 教科書ですが、基本に実に丁寧で、学習の流れがわかりやすく、理科が得意な先生もそうでない先生でも指導しやすい構成になっているなと感じました。いわゆる使い勝手がよいというんですか、基本を

しっかり押さえながらも、発展的な取り組みに対しても十分な対応がしてあります。また、そのことは児童に対しても同じで、理科が得意な子も、苦手な子も理科という教科が楽しめるような工夫がされていました。シールなど、どんな子どもでも取り組みやすい小物やゲーム大会など、楽しい企画が載っていました。さらに、この教科書は理科教育で最も重要だと思われる子どもの自由な発想というものを大切にしているなという印象を受けました。

さて、次に学校図書ですが、表紙に科学者の写真を載せたり、単元の初めに関連するような詩を載せたり、さまざまな角度から児童に理科に対する興味を持たせようとする工夫が見られました。

教育出版の教科書も、「アトム」のキャラクターをうまく使い、取り組みやすい工夫がされていました。発展学習やまとめ学習も充実しており、書き込める部分を多く使っていました。

最後に、啓林館ですが、理科好きの先生にはとても魅力的なたまらない教科書という感じがしました。写真の構成も見事で、対象に対する視点も他者とは一線を画していました。別冊の教科書をつけることにより、理科学習の一連の流れを自然に理解できるように工夫されていました。何回読み直しても新しい工夫が発見できるおもしろい教科書でした。

委員長 ほかにございますでしょうか。天利委員。

天利委員 私は、教科書の構成や表現の視点で見させてもらいました。特別支援教育という視点からどうしても見てしま

うんですが、そういう意味も含めてお話ししたいと思
います。

どの教科書も環境に配慮した紙質とか、植物性のイン
クを使うとかというのでは、本当にアレルギーの子ども
たちに対しての配慮をとてもされているんだなというの
がどの教科書にも見られています。あと、文字の読み間
違えというんですが、間違えてしまうような文字を使わ
ずに、わかりやすい文字を使用するというような工夫が
されていたりしていました。また、理科なので、グラフ
とかいろんな実験の写真が多いんですけども、グラフ
なんかだと、隣り合う色がわかりにくくならないように
識別しやすい色を使ったり、リトマス紙ではどこが変化
をしているのかというのがわかるようにその部分を丸
したりとか、本当に細かいところについても配慮されて
いる教科書になっているなと思っています。

あえて、これはすごいなと思ったのを幾つかお話しし
たいと思うんですが、啓林館の教科書では、安全の授業
ということで、実験などにおいては危険防止のコメント
をどの教科書も書いていると思うんですけども、それ
を目立たせるために、いわゆる普通の赤というよりも朱
色に近い朱赤というような色を使って、より注目しやす
い形にして、どの子も、ここを気をつけながら実験しな
ければいけないなというような感じになっていると思
います。

それから、時系列の関連をつかむことが難しい児童が
結構いると思うんですけども、1回、目を教科書から
離してしまうとまたどこに戻ればいいのかわからなくなっ
てしまうというような子どもたちに対しても、全体の流
れとか手順については矢印をうまく使って、この次には

ここを見ればいい、ここを見ればいいというような工夫が啓林館でされていました。

それから、大日本の工夫でおもしろかったのが顕微鏡の使い方のところなんですけれども、視覚的に常にそれを見ながら授業に入れるように、折り込みになっていて、そこを開くと、ほかのページから外に出る状況になるんですね。そうすると、ほかのページの授業をしながらこの実験をやっていくよというときに、この顕微鏡の見方はこの部分だよねという確認ができるような工夫がされているので、とてもいいんじゃないかなと思いました。

委員長 ほかにございますでしょうか。中林委員。

中林委員 写真がとても多くて、理科ならではだなと思いました。私が見てもすごく楽しいものだったなと思います。出版社ごとに少しお話をさせていただきたいと思います。

まず、東京書籍ですが、学年ごとに共通なんですけれども、保護者宛てにメッセージがありました。それから、毛利衛さんが編集委員の代表だったので、6年生向けに毛利衛さんからの子どもに向けてのメッセージがとても印象に残りました。

それから、大日本図書ですが、5者の中では一番薄い教科書だったんですけれども、校長先生、それから教員の方の編集委員の割合が多分一番多かったんじゃないかなと思いました。この中で、見ていいなと思ったのは、体の仕組みのところ、実際に子どもの写真に内臓のところの写真を押さえていたので、子どもたちが自分のどの位置に何があるのかがすごく想像しやすかったのではないかなと思いました。

それから、学校図書については、裏表紙に、学年ごとに科学者の言葉が入っていました。アインシュタインであったり、湯川秀樹であったりと、すごく興味があって、私もいいななんてちょっと思いました。

それから、教育出版につきましては、向井千秋さんとか著名な方のメッセージが子ども向けにあちこちに入っていて、理科を楽しんでねというようなすごいメッセージがあって、これはいいかなと思いました。

それから、啓林館につきましては、厚さは一番分厚かったんですけども、保護者宛てのメッセージが学年ごとに違うものが入っていました。この会社は、算数のほうでも、保護者向けに学年ごとに単元とかで目線を上げてくれるようなコメントをつけてくれたので、親としてはとてもいいなと思いました。それから、巻末にプラスアルファの部分が載っていて、理科をもっと知りたいなという子どもたちの気持ちをすごく盛り上げてくれるいいものではないかなと感じました。

委員長 ほかにご意見はございますでしょうか。倉委員。

倉委員 各者とも写真や構成の仕方、巻末付録など、いろいろと工夫がなされているなと感じました。

本市の児童の実態や地域の特性との関連の観点から言うと、教育出版では、6年の「土地のつくりと変化」で江の島が取り上げられています。

また、大日本図書でも、6年の「土地のつくりと変化」で江の島が取り上げられています。子どもたちにとって非常に身近な教材であり、親しみが持てるのではないかなと感じました。また、4年生の「季節と生き物」では、

各者とも同じ場所の写真を春、夏、秋、冬と載せていましたが、大日本図書の写真は大きく、また、自分たちが住んでいる地域でも見かけられる光景を取り上げているので、子どもたちにとっては非常に身近な感じを受けるのではないかと感じました。

委員長 ほかにご意見はございますでしょうか。菅委員。

菅委員 全ての教科書を見させていただきました。理科ですから、実験観察から学ぶこと、また、写真や図から読み取ることができるようなつくり方になっていました。

中学校のほうからの視点でいきますと、やはり子どもたちの科学的思考力の育成というのがあります。それを基本にしながら、理科への関心、児童の意欲、関心を高めていくという視点で教科書を見させていただきました。

教育出版ですが、使われている写真の多くは連続写真、または時間差を置きながら、成長過程や変化の過程を追っています。ややもすれば、変化の過程を説明しようとする理解しにくい子どももいます。言葉、文章ではなく、教科書をあけた瞬間、「うわっ！」という視覚的な部分から、子どもたちへの導入、展開へと入っていくことができる教科書ではないかなと思います。

学校図書ですが、中学校では実験があり、必ず実験の後にはワークシートをつくります。そこに自分の考え方、考えたことなどを書き込み、そしてまとめをします。それと同じく、教科書にノート作成の実例があるのは、まとめるのが難しい子には助かり、効果的ではないかと思っています。また、写真も効果的に使われており、5年生の

読み物、50ページにある「サケの一生」とか、100ページにあるいろいろな川の様子の写真などは、「そこからわかることは何?」と、子どもたちに聞いていったならば、数多くの答えが出てくるのではないかと思います。

続いて、大日本図書です。中学校1年生では「大地の成り立ちと変化」という学習があります。6年生で地層と地震を習って同じような学習をしますが、中学校に行きますと、P波、S波、または初期微動継続時間と、急に内容も高度になります。それに対応できるように、地震発生の仕組み等、その辺あたりがしっかりと押さえられているので、子どもたちにとっては安心ではないかなと思います。また、教科書には、「予想しよう」「計画を立てよう」「考えよう」と、児童同士で話し合いを行うようになっており、相手にまとめて自分の考えを伝える機会をつくっていると考えられます。

藤沢という視点でいったときに、まず教科書には江の島の写真があり、藤沢の子どもたちは江の島に行く機会が多いので関心と呼ぶことができるのではないかなと思います。また、藤沢では総合かがく展が何十年にもわたり実施されています。低学年の子どもたちも取り組んでいます。作品作成に、教科書の中には自由研究の部分もあり、それを生かすことができるのではないかなと思います。理科離れが言われている今、藤沢の子どもたちにとって理科への関心を高めるにはよいと思います。

委員長

ほかにございますでしょうか。

では、理科を終えて、生活に移りたいと思います。生

活についてご意見をお願いいたします。上原委員。

上原委員　生活科の目標は、具体的な活動を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において、生活上必要な習慣や技能を身につけさせ、自立への基礎を養うとなっています。

この意味で、どの教科書を見ましても絵や写真をたくさん使って、目で見てわかるだけではなく、やってみたい、調べてみたいという1、2年生の児童の意欲を引き起こすような内容となっていました。その中でも、私は大日本図書と東京書籍、学校図書についてお話ししたいと思います。

大日本図書についてですけれども、小单元ごとに、教科書の上に「まちに出かけいろいろなものを見てこよう」というような目当てが示されています。これは、児童が自分で学習を進めやすくするという工夫になっていると思います。それから、私も初めて見たのですけれども、教科書途中に透明シートを使って、夜の街を探検するというような教材が上下巻とも用意されており、これは児童の意欲を高めるのに役立っているものかなと思いました。また、1、2年生の子どもたちですので、児童の好きな動物がナビ役として登場し、注意事項を話したり、気づきを促すような発言をしたりしながら学習を進めていくという工夫もよい点かと思います。巻末には「学習道具箱」というものがあり、昔の遊びが紹介されていたり、道具の使い方の基本がまとめて書かれていたり、児童にとって使いやすいものとなっていると思います。

東京書籍についてですが、東京書籍では、たいちゃん

キャラクターという太陽のキャラクターが登場して、「どうしたらもっとうまく動くかな？」というように、児童に考えさせる問いかけをしています。これも気づきを促すために有効なキャラクターの使い方だと思います。また、初めて学校生活を送るということを考慮して、1年生の生活の様子を丁寧に紹介する「1年生すたあとぶっく」というものを巻頭に設けており、これは子どもたちの不安を取り除き、楽しく学習するのだという、そういった意欲が喚起される工夫ではないかと思います。また、「生きものずかん」や「やさいずかん」「べんりてちょう」などもあり、写真や図を見ながら、育て方や生き物の種類が調べられるようになっていきました。巻末にある「ポケットずかん」は、切り離して観察時に持ち歩けるというような特色があり、これも使いやすいものだと思います。自然の豊かな本市にとっては、身近に虫や草花がありますので、これらのわかりやすく丁寧な記載は児童にとっても使いやすいものであるかと思います。

学校図書についてです。学校図書は、表紙を開いてみると、折り畳み式のワイド版、開くと4ページ分になるのですけれども、そこを使って1年生の生活を紹介していました。学校図書はダイナミックな写真の使い方が随所に見られます。低学年の児童にとっては、見やすく、使いやすく、なじみやすいものではないかと思います。中にありました「行ってみたいね」というところでは、水族館や児童館、公園、図書館という本市でも身近な施設を取り上げていましたので、子どもたちにとって興味のわく教科書ではないかと思います。また、カードの書き方、観察カード等も、随所に丁寧に示されていたので、どのように観察記録を書いたらよいかということ

がわかりやすくなっていました。「ものしりノート」や「生きものずかん」というものも写真もきれいで、見やすく使いやすいものになっていたと思います。

委員長 ほかにございますでしょうか。加藤委員。

加藤委員 私は、次のような視点で各者の内容を見てみました。

1つ目は、生活空間の中でさまざまなかわりを持ちながら家族や地域への愛着を持つとともに、生活の習慣、そして技能を身につけていく、学びを広げていくような活動になっているかどうか。そして2点目は、四季の流れを意識しながら学習が進められているか、対象と繰り返しかわる活動になっているか。3点目は、今日的課題である防災、安心安全、衛生、人権等への配慮がなされているか。そして4つ目ですが、繊細で、できれば自然な絵と淡い色調で落ちついた雰囲気でもとめられているかどうか、そういった点で見ました。

確かにどの者のものも甲乙つけがたいところがあるんですけども、それぞれの視点に合ったさまざまな工夫を教育出版と東京書籍が取り入れているように感じられました。それだけでなく、2者ともに、先ほども話に出ましたが、巻末には、「ぐんぐんポケット」「ポケットずかん」等を設けていて学習の助けとなっていました。

また、東京書籍の冒頭には「保護者の皆様へ」というメッセージが記されていて、学校と家庭をつなぐという意図がとても感じられました。

さらには、使いやすさの点では、教育出版は、見開きのページの上部に、ナビゲートラインと称して、巻末ページ、他教科へのリンクマークがついていました。右端

から社会及び自然とのかかわりに関心を持つというところがとても大きな目標になっていると思うんですけども、学校図書出版では、「チャレンジずかん」の中で町の工夫を見つけないといけないところで、見開き2ページで、手話の紹介、車椅子でバスに乗る写真、点字ブロックといったようなページで、そういう工夫を探しましょうというところがありました。藤沢ではこういう環境整備はとても整ってきている、けれどもなかなかそこに視点が行かないという意味では、こういう部分で表記されているのはとても意味があるなと思いました。

また、教育出版とか啓林館については、こういうことをしましょうというよりも、挿絵や写真などで、車椅子の子どもたちとか外国の子どもたちがとてもたくさん出てきます。特に啓林館などは、盲導犬を連れた人というような人たちも挿絵の中に出てくるんですね。こういったことというのは、取り出して学ぶのではなくて、本の中に自然な形で入って行って子どもたちに浸透していくと考えると、この藤沢なんかでも、とてもこういう活用があるのかなと思いました。

委員長 ほかにございますでしょうか。本橋委員。

本橋委員 それでは、私のほうからお話しさせていただきます。

生活科の中で、日本文教出版の教科書を見させていただきました。こちらは、単元の初めの写真やイラスト、それから単元名から学習活動をイメージして活動意欲に働きかけるような形になっているということ、そして、そのほかに、学習の流れやねらいが大変わかりやすく示されていることで、児童が課題に向き合って、活動の見

通しを持ちつつ、課題解決に至る学習がなされていくような構成になっていると思います。また、多様な活動が扱われていることも特徴かと思えます。そのほか、キャラクターの吹き出し等が、子どもの気づきですとか課題解決を行っていく過程において有効に働くような工夫がなされていることも特徴としてあげられると思います。

それから、光村図書出版の教科書につきましても写真やイラストが効果的に使われております。児童が活動を見通して、進んで取り組めるような構成になっていると言えます。

全体を通しまして、光村図書の教科書は、イラストですとか、あるいは写真から大変温かさが強く伝わってくるなと感じました。動物ですとか植物の写真は大変大きく扱われておりまして、子どもたちが、かわいがる、それから大切にしようという、そういった気持ちに働きかけていく効果があると思います。

東京書籍の教科書も見させていただきました。こちらは、子どもにやってみたいなと思わせるような多様な活動が示されておりました。写真やイラストでそれらがわかりやすくあらわされていたりもします。特に単元名から、わくわくした活動への期待感を持たせる工夫がなされているなと感じております。活動への見通しを持って取り組めるような学習の流れですとかねらい、こういったものもわかりやすくあらわされているところがよいと思います。特に単元の初めにあります写真、イラストにつきましても、さまざま見た教科書の中では大変ダイナミックで効果的であると感じております。

先ほど上原委員が述べていたんですけれども、東京書籍の教科書の単元構成は特に季節感というのを柱にして

いまして、そういった意味では、自然の豊かさが残っている本市の児童にとっては、その特徴を感じながら学習できるところがいいのかなと感じるところです。また、「べんりてちょう」ですとか「ポケットずかん」などの扱いやすい資料に工夫が見られるところも好ましいと思いました。

委員長

ほかにございますでしょうか。よろしいですか。

では、生活を終えまして、音楽に移りたいと思います。ご意見をお願いいたします。吉田日登美委員。

吉田（日）委員 私は、2つの出版社の教科用図書を編集の趣旨と工夫、内容について詳しく見させていただきました。

音楽で一番大事なことは、子どもたちが親しみやすい内容になっているかということです。

教育出版、教育芸術社ともに学年に合った内容で、子どもたちが親しみやすい曲がたくさん盛り込まれていました。特に教育出版の1年生から6年生までに、全校合唱として「さんぽ」という曲が載っていましたが、音楽に親しむ近道の1つだと感じました。それは、子どもたちが好きな「となりのトトロ」という映画の挿入歌として使われているからです。このように、全校合唱や合奏などの活動を通して、音楽の基礎的な能力や豊かな情操が養われていくと思います。また、題名に「音楽のおくりもの」とあるのもいいと思いました。音楽は音を楽しむ教科ですので、子どもたちの生活の中に音楽が自然に入っていくように感じました。

題材のねらいを色分けして明確に表示していることも、より理解を助ける手だてになっていたと感じました。

また、表紙の絵もかわいらしくて、中の曲に合わせたイラストもとても効果的でした。6年生の表紙の裏にピアニストの辻井伸行さんの写真と言葉が載っていました。目の不自由な人などにも音楽の道が開け、誰でも音に親しむことができるんだなと感じることができると思いました。また、両教科書とも、昔から歌い継がれている「お正月」や「キラキラ星」などが盛り込まれて、大人になってからも懐かしさを感じる曲だと思いました。

教育芸術社のほうは、曲に合わせて写真や絵を工夫して使い、子どもたちの音楽に対する興味、関心を導いていました。1年生を例にとりますと、「やまびこあそび」や「大波小波」など、遊びを通して音楽に親しませていたのも印象に残りました。また、両教科書とも、トライアングル、鍵盤ハーモニカなどの使い方を丁寧に示して、指導する教師にとっても大変わかりやすいと感じました。

委員長 ほかにございますでしょうか。佐藤誠委員。

佐藤（誠）委員 私のほうからは、教育出版の教科書について述べたいと思います。

まず、構成や表記、表現等に関しましては、3年生以上になると、オーケストラなどで使用されるさまざまな楽器を大きな写真で紹介しながら鑑賞教材を楽しめるように編集されているなと感じました。また、楽器だけでなく、一流の演奏家やコンサートホールの様子などがカラー写真で大きく紹介されているページも多く、クラシック音楽の文化に小さいころから少しずつ親しめるような工夫がなされているように思いました。また、本市の

児童の実態や地域等の特性との関連につきましては、4年生の鑑賞教材の中に、歌劇「魔笛」からというタイトルで、見開きのカラーページでオペラの様子が紹介されていて、昭和48年から日本最古の市民オペラを立ち上げた藤沢市にとっては大変結びつきのある内容であり、よいと思いました。

委員長 ほかにご意見はございますでしょうか。吉田葉子委員。

吉田（葉）委員 私も、内容の観点の中で、特に鑑賞の教材に着目しました。どちらの教科書も1年生から6年生まで本当にいろいろな種類の音楽が取り入れられていて、これだけの曲を6年間で体験できる、その体験を積み重ねられるということは素晴らしいことだと思います。中学でも鑑賞の授業に言語活動を取り入れることで、生徒たちが曲を自分なりに鑑賞し、その曲に対する思いを深めている様子が授業の中でよく見られますが、今回の両者の教科書の中でも、感じたことを教科書に書き込むといった活動が入っているのがよいなと思いました。

教育出版では、多くの学年で感じたことやイメージ、おもしろいと思ったこととその理由などを表にまとめる、そういうような作業が取り入れられていて、また、感じたことを書いて、書いたことを友達に伝えようというところがあって、言語活動が意識されたつくりになっているなと感じました。

また、教育芸術社でも教科書に書き込むページがあったのですが、それに加えて、旋律の特徴に着目させ、他の領域で学んだ内容を生かしながらさらに鑑賞を深めていく、そして、それを学年を追うごとに系統的に学んで

いけるように配置されていると感じられ、そういうところがよかったなと思いました。

委員長 ほかにご意見はございますでしょうか。小泉委員。

小泉委員 どちらの教科書も国内外の音楽を取り入れてあって、教材の充実が図られておりました。子どもたちは音楽活動を通して、充実した教材で幅広い学びと豊かな情操を育むことができると感じました。

その中で、発達段階と構成という点から見まして、教育芸術社について述べさせていただきます。紙面がとてもシンプルなデザインになっていて、学習内容の重要な部分が目に入ってくるような感じを受けました。児童にとって大変わかりやすく、使いやすいと思います。そして、ねらいに迫るための学習内容や学習活動についても大変具体的に示されており、子どもたちは明確な目当てを持って活動することができると思います。また、どの題材も発達段階に即していて、無理なく音楽という学びの深まりを実感することができると感じました。教科書の中でどちらかということ音楽は得手不得手ははっきりするという傾向がありますが、この教科書にあって、どの子も音の重なりを感じながら活動して、喜び、楽しさを味わうことができると感じました。

また、教育芸術社のほうは、唱歌についても狙いに合わせた構成になっている、使いやすいと感じました。見開き2ページに楽譜と写真を掲載してあり、歌詞のあらかず情景をそのページを見ていて思い浮かべることができました。写真は子どもたちが歌詞の理解を深める上で大変効果的だと感じましたし、その曲を目からも耳から

も味わうことができると感じました。そして、巻末には、リコーダーの運指表や音符などがまとめられていて、その点も児童にとっては使いやすく、復習や学習のまとめとして活用できるように構成されていると感じました。

委員長 ほかにご意見はございますでしょうか。よろしいですか。

では、音楽を終えて、図画工作に移りたいと思います。ご意見をお願いいたします。佐藤誠委員。

佐藤（誠）委員 図画工作科につきましては、日本文教出版と開隆堂の2者が採択候補となっております。

1つ目、編集の趣旨と工夫等につきましては、両者ともに児童の創造的活動を広げ、多様な表現を実現するためのさまざまな技法やアイデアが多く、写真を用いて十分に盛り込まれており、創る意欲、描く意欲を湧き立たせるように工夫された編集がなされていると感じました。

2点目、構成等につきましては、日本文教出版の場合、題材の冒頭に「学習のめあて」が提示されていて、その題材を通して学ぶべきこと、指導者にとっては押さえるべきことが観点ごとにわかるようになっている点と、見開きのページで作品例や活動の様子が紹介されており、児童にとっては活動の手だてがわかりやすく工夫されている点がよいと感じました。

一方、開隆堂の場合は、ダイナミックな絵画や訴えかけてくるような迫力のある彫塑作品などの作品例が多く掲載されていて、児童が自らのイメージを広げ、描きた

い、創りたいと思う気持ちをかき立てる工夫があるように思いました。また、開隆堂の教科書の目次は、一目で1年間の学習内容と使用する用具や材料が見渡せるように構成されていて、児童にとっても、指導者にとっても大変使いやすい工夫がなされている点も評価できると考えます。

委員長 では、高平委員。

高平委員 どちらの教科書も、お友達と協力して作品をつくる、自分とお友達の作品を見たときにどういうところがよいなと思ったか、お互いのよさを見つけ認めることを大切にされていると思いました。また、道具の使い方や注意するところなども丁寧に示されています。

その中で、特に開隆堂は、自分の身近な素材を使ってつくれる作品が多かったのですが、1、2年の教科書に印象に残った作品がありました。お花紙を使ってつくる作品なのですが、色を重ねてみたり、丸めてみたり、手の感触や視覚を通じていろいろな発見やつながり、驚きを見つけられると思いました。その作品に紹介されている写真も、子どもたちの声が、「この色とこの色をまぜるとこんな色になったよ」というような、好奇心旺盛な1年生のわくわくしたような声が聞こえてきそうで、とても引きつけられました。

委員長 ほかにございますでしょうか。前川委員。

前川委員 私は、日本文教出版について述べさせていただきます。この教科書は、児童がお友達と一緒に作品づくりに取

り組んでいる場面を多く取り入れています。これは子どもが見える、それから授業が見える教科書を目指しているからだと思いました。

掲載されている作品には、ダイナミックな創造活動を取り入れた題材が多く示され、児童にとってつくる意欲を高め、イメージも広がりやすいのではと思いました。また、授業の枠に捉われないさまざまな図工を通じた活動を紹介していて、図工の持つ広がり、それから発展性を感じさせるものとなっていました。巻末には、絵や写真を使って材料や用具の使い方を丁寧に示してあり、児童にわかりやすいものになっていました。

委員長 それでは、倉委員、お願いします。

倉委員 編集の工夫という観点からお話しします。

図工科というといろいろな道具を使うことも多く、その道具をどう使っていくのかということ各学年に応じて学習していくことが必要なことだと思います。

日本文教出版の教科書では、題材ごとに作成時のポイントが書かれているので、子どもたちが実際につくるときに非常にわかりやすいと思いました。

開隆堂の教科書は、題材ごとにつくり方や使用する用具、あるいは材料の扱い方について絵や写真で大変わかりやすく示されています。また、巻末の「道具箱」というページでは用具や材料とその技法を丁寧に載せていますし、「パレットコーナー」というページでは形や色を扱っていて大変わかりやすくなっています。子どもたちも、先生も使い勝手が大変いいかなと感じました。

委員長 ほかにございますでしょうか。小泉委員。

小泉委員 開隆堂、日本文教出版とも、題材の充実は図られておりますし、系統的にバランスよく配列されていたと思います。そして、どちらも児童作品が大変効果的に取り上げられていましたが、特に開隆堂のほうでは、多くの児童作品に思いや願いが記載されていて、より工夫を感じました。そして、活動中の児童の対話、つぶやきを吹き出しで示してあります。子どもたちが発想を広げるきっかけとなり、作品をつくり上げていく意欲をかき立てられると感じました。児童作品を活用することで日々の鑑賞活動にも波及して、互いの感じ方やおもしろさを楽しむ、味わうことが学校生活の中でできていくと思います。また、開隆堂ではさまざまな場面において、児童作品の飾り方、展示の工夫が例示されておりました。これもまた学校で鑑賞活動に工夫をもたらし、効果を上げると感じました。教室や廊下、あるいは校舎内の一室に児童作品が展示され、そして休み時間等に児童が集まって、言葉を交わしながら鑑賞する姿をイメージできました。鑑賞活動の充実は、言語活動と次の創作意欲へとつながっていくと思います。

鑑賞作品の特設ページとしましては、開隆堂のほうは「小さな美術館」、日本文教出版のほうは「教科書美術館」というような形で設定されておりましたので、そこもまた大いに活用できると感じました。

委員長 ほかにご意見はございますでしょうか。

では、図画工作を終えて、家庭に移りたいと思います。家庭科、ご意見をお願いいたします。上原委員。

家庭科は東京書籍と開隆堂の2者でしたけれども、両教科書とも図や写真を多用し、作業が目で見えてわかるようになっており、基礎、基本が確実に習得できるような工夫がなされていました。

学習内容から見ますと、東京書籍は、「学習のめあて」に対して「ふり返ろう」というものを小單元ごとに設定し、自分で目当てが達成できたかを確認できるようになっていました。ページ一番下の同じ場所に「ふり返ろう」というものが記載してあるため、児童にとっても、わかりやすい、見やすい工夫であると思います。例えば、調理の単元で、調理の手順や目的がわかりましたかという「ふり返ろう」が設けられており、児童が自分で何を身につけられたかということが確認できるようになっています。そのほか、5年生で初めて使うミシンについては、大きくミシンを描いてあり、各名称を丁寧に解説してありました。使い方の手順も丁寧に示されており、初めてミシンの学習をする児童にとってはとてもわかりやすいかなと思いました。

次に、開隆堂についてです。開隆堂は単元構成に工夫が見られました。5年生で寒い季節を学習した後、続けて暑い季節を扱うのではなく、6年生で暑い季節を学習するというように、学年をまたいで学習することで、内容を振り返り深めていく学びのスパイラルを意識した構成となっていました。また、構成から見ますと、教科書に、1、家族や家庭をピンク色、2、食生活を黄色、3、衣生活・住生活を青、4、消費・環境を紫と、色分けしたインデックスを各ページにつけることで、今、学習していることがどの領域であるかということが児童にわか

りやすい構成となっていました。また、写真の使い方が効果的で、スクランブルエッグや野菜炒めの手順につきましては、横に順番に写真を並べることでつくり方を示しており、見てわかるという学びやすい工夫がされていました。

最後に、伝統や文化に関する教育の充実という学習指導要領の改善事項を受けて、開隆堂では、郷土料理や各地域の文化や地産地消の食材の紹介など、多数を取り上げておりました。

委員長 ほかにありますでしょうか。天利委員、お願いします。

天利委員 2冊、東京書籍と開隆堂ということで、どちらも1人ひとりの子どもたちが体験とか実践を通して確実にできることをふやし、生活の中で生かしていける、そんな視点で、とてもいろんなところに工夫がされていると感じています。

東京書籍についてなんですけれども、巻末に「いつも確かめよう」というものが用意されていて、基礎、基本を確実に習得するために用意されているんですけれども、包丁の使い方、それから手の置く位置など、実習をやる度にそれで確認ができるように大きい写真になって、自分の手を置きながら確認できるような工夫がされていました。さらに、基本の動作は、教科書は右利きで書いてあるのが普通だと思うんですけれども、東京書籍については左利きの子どものための写真も同じように用意されていて、どちらか自分のやりやすいような形で取り組めるような写真になっていました。

開隆堂についても、2年間で1冊という教科書を使用

するに当たり、5年生から始まるので、まず最初のガイダンスのところがとても印象的なものになっています。見開き2ページ、プラス1ページ折り込みになっているので、そこで2年間で何を学ぶか、どんなものを見通してやっていくのかということ子ども写真と説明の言葉で表現されていて、今までが支えられている自分、できるようになる自分、そして成長していく自分、その次が中学生というような1つの流れにあって、ストーリー性のある構成と題材になっているなと思いました。

最後に、環境についての項目の中で、身の回りにあるものを利用してという項目があったんですけども、その中でペットボトルのふたを使ってつくる針刺しみみたいな、ちょっと小さい簡単にできるものが紹介されていました。ペットボトルキャップというのは藤沢で、チャレンジかわせみなどでとても取り組んでいる題材なんですけれども、そういうものと関連づけやすい、そして誰でもつくりやすい題材なのかなと思いました。

委員長 ほかにございますでしょうか。倉委員。

倉委員 2者とも写真や図がわかりやすく載っていて、配置などの構成もよく工夫されているなと感じました。

編集の工夫という観点から言うと、東京書籍は、単元の初めに「学習のめあて」があって3段階になっていて、単元の流れがよくわかるように工夫されていると思いました。パターン化されているので、子どもたちも活動しやすいのではないかと感じました。

開隆堂は、巻末の資料に、「調理実習を成功させるために」というところと「製作実習を成功させるために」

というところがあって、家庭科学習でよく使われる用語や器具などを子どもたちがちょっと調べてみようかなというときに使い勝手が大変よいと思いました。また、料理の手順が詳しい写真を使ってわかりやすく載っているのもいいかなと感じました。さらに、安全チェックの欄が大きくて、簡単で見やすいというところもあるので、子どもたちが安全に実習できるのではないかと感じました。

委員長 では、加藤委員、お願いいたします。

加藤委員 重複するところも出てきますが、2者ともに家族とのかかわり、地域との触れ合いを大切にする題材が取り上げられています。道徳との関連も感じられました。ほかにも関連ページや関連教科はリンクマークで示されていて、学習の広がりや深まりが期待できそうです。また、安全や環境に配慮したマーク表示があり、裁縫や調理の仕方もわかりやすく、子どもたちがつくってみたいと思うような作品がいろいろ紹介されていることなど、子どもたちにとって安全でわかりやすく、しかも楽しく学べる教科書になっていると思います。また、ナビゲーター役のキャラクターにも親しみが持てました。

東京書籍では、「日本の伝統」とか「プロに聞く！」というコラムがありまして、子どもたちの興味、関心を引き出せそうでした。「プロに聞く！」では、学習内容に合わせて登場するさまざまな専門家のコメントが載っています。これは働くことの多様性を知る手だてにもなっているのではないのでしょうか。夢や希望を持って自己の進路選択をする力を育てるキャリア教育にもつながる

と思われます。

開隆堂ですが、題材の最初に「学習のめあて」、そして最後に「ふり返ろう」「いかそう」、また、実習のページには「できたかな」という投げかけが表示されています。基礎的、基本的な知識、技能の定着が図られていると思います。また、「やってみよう」「調べよう」「考えよう」「話し合おう」などの投げかけで課題解決の学びの流れが作り出されているように思いました。発展学習としての「調べてみよう」のコーナーや、家庭での実践を促すチャレンジコーナーもあり、家庭での自分の役割、あるいは家族のつながりを確認しながら、主体的に学習に取り組む態度というのを養う工夫がさまざまな形で見受けられました。

委員長

ほかにご意見はございますでしょうか。

それでは、家庭科を終えて保健体育に移りたいと思います。ご意見をお願いします。高谷委員。

高谷委員

保健は、それぞれの教科書も内容は指導要領に準じた編成でよくまとめられていました。

保健は、指導要領では体育という教科の一領域ですので、学校現場では、体育が雨で中止になったときに急遽保健の授業に振りかえるということもよくあります。その辺の学校現場の事情をよく考え、使い勝手がいいように教科書のサイズをなるべく薄くコンパクトなB判を採用した会社が光文書院と大日本図書です。それよりも見やすさ、書き込みやすさを重視し、A判サイズを採用した会社が学研教育みらいと文教社でした。そして、その間のサイズのA B判を採用したのが東京書籍でした。

さて、各会社の教科書の内容について少しお話しさせていただきます。まず、学研教育みらい社ですが、児童が興味を持ち、主体的に学習できるように発展的な資料が実に詳しく載っていました。また、「学習のまとめ」というコーナーで単元の復習ができるので、学習の振り返りがしっかりできると思いました。

文教社はイラスト中心のわかりやすい構成で、何より子どもに学んでほしい知識や理解してほしいことが要約され、一目でわかるような工夫がされていました。

光文書院のものは、コンパクトながら資料が充実していました。例えば、けがの手当ての仕方でも、目にごみが入った場合、頭を強く打った場合などを取り上げ、子どもの日常生活でありそうなことにポイントを絞って詳しく解説していました。

東京書籍がA B判を採用したという理由は、コンパクトでありながら書き込むスペースはしっかり確保したいという編集者の気持ちが教科書にはっきりあらわれているような気がしました。この教科書はどの単元でも、最後に「活用して深めよう」という、自分で考え、生活に生かしていこうというコーナーを充実させており、児童が主体的に取り組めそうな印象を受けました。

大日本図書のものも薄くてコンパクトなのですが、なかなか充実した内容で、ぱっと見開いた見開きの1ページで1単元が学べる工夫がされ、先生にも生徒にも使い勝手がいいんじゃないかなという印象を受けました。

安全の領域では、自転車の安全点検を大きく取り上げたり、子どもの悩みの解決法なども学校現場の実態に即していたりと、最近の子どもたちのことをよく研究しているなという印象を受けました。

委員長 ほかにございますでしょうか。菅委員。

菅委員 保健の教科書を見まして、中学校とは違うなと思いましたが、まず、両面で1時間の内容で進めるんだなと思いました。

体の成長や心の成長につながっている内容で、中学校の視点から見ていきますと、子どもたちが3年間の中で成長する中で多くの課題にぶつかります。まず、体の成長では、性教育を1年生、2年生、3年生と成長に合わせて中学校でも指導します。また、1年生では喫煙、2年生では飲酒、3年生では薬物ということを指導していきますが、そういう観点で見ていきますと、小学校の段階でもしっかりと各会社は取り上げられているなと感じました。2つの出版社について話をします。

東京書籍ですが、イラストや図でわかりやすくなっています。より視覚的になり、理解しやすいようになっています。健康への害として喫煙や飲酒、健康面についてよく考えさせる内容になっていると思います。また、地域マップづくりなどもあり、藤沢市での取り組みもあり、参考になると思います。

2つ目ですが、光文書院についてですが、子どもたちにわかりやすいようにキャラクターを使っています。また、どのページにも子どものイラストが使われており、身近に感じることから、生活面での基礎、基本的な知識が得られるようになっています。特に成長段階のことについては、5年、6年の内容は中学校でも大きく取り扱われている内容です。生活の乱れ、またはインターネット等、現代の子どもたちの課題を丁寧に扱っています。

委員長 ほかにございますでしょうか。前川委員。

前川委員 内容、編集の工夫の点から、3冊の教科書について述べさせていただきます。

まず、学研教育みらいですけれども、紙面の大きさを生かしまして、写真や挿絵が大きく、わかりやすく提示しています。自分の考えを深めたり、振り返ったりするために有効な書き込み欄が随所にあります。また、用紙の発色がよく、書き込みに適した紙を使用していました。各章の章末には「もっと知りたい・調べたい」というページがあり、発展的な学習に役立つと思われれます。

次に、東京書籍です。他教科もそうなんですけれども、学習課題、学習活動、「ふり返ってみよう」など、個々の活動をはっきりと言葉であらわしているんですね。これで学習の流れがわかるように工夫されています。特に「ふり返ってみよう」では、学んだ内容を自分でチェックするという、児童にとって確認しやすいものになっていました。また、紙面が大きく、字もユニバーサルデザインフォントを使用して、とても見やすくなっていました。

最後ですけれども、大日本図書です。これは先ほど高谷委員もおっしゃいましたけれども、各章の初めに日常生活の生活風景を見開きに大きく提示しています。実はここに問題点やキーワードが隠されていて、それを児童が見つけるという導入で授業を展開していくというねらいが感じ取れました。このようなゲーム感覚的なものを取り入れることで児童が興味を持って取り組めるのではないかと思いました。また、内容理解に役立つ資料、ミ

二知識などを豊富に取り入れており、児童の理解が一層深まるよう工夫されていました。

委員長 ほかにございますでしょうか。

 保護者の目からということでは何かございますか。では、高平委員、お願いいたします。

高平委員 では、保護者の視点で。小さいサイズも大きいサイズもいろいろありまして、ぱっと見た感じは、大きいサイズのほうが写真も多くてわかりやすいなと思いましたが、どの教科書も、飲酒ですとか喫煙、薬物に関してとても詳しく載っていました。

 お酒を飲み過ぎるとこうなるよとか、たばこを吸い過ぎるとこうなるよというのは、多分5年生、6年生くらいになると親が言ってもちょっとうるさいなと思うような年ごろになると思うんですけども、子どもたちは言葉よりも写真で見たほうがやっぱり心に響くものがありますし、特にたばこに関しては、吸っている本人だけじゃなくて周りの人にも影響があるよということなどもしっかりと伝えていかなければいけないと思いました。

 また、思春期特有の体の成長に関してなども、恥ずかしいという思いもあるかもしれない、そういう時期だと思うんですけども、そうではなくて、あなたたちはこれからの未来を支えていく、これから結婚して子どもを産んで家庭を持って育てていくんだよということを伝えられるような工夫が教科書それぞれであり、よかったなと思いました。

委員長 以上で11種目全ての種目の審議は終わりました。

つけ加え等、何かご意見はございますでしょうか。ありましたら、今お願いいたします。

各委員 なし。

委員長 それでは、議題1「平成27年度使用小学校用教科用図書について」の審議はここまでとし、審議を終了いたします。

これで本日予定された議題に関する審議は終わりましたが、全体を通して、委員の皆様、何かございますでしょうか。

各委員 なし。

委員長 では、次回の審議委員会は、7月18日金曜日午後2時から、場所は藤沢合同庁舎5階大会議室で考えますが、この日程でよろしいでしょうか。

次回の議題は、平成27年度使用特別支援学校及び小学校もしくは中学校の特別支援学級用教科用図書の審議と、平成27年度使用小学校教科用図書並びに平成27年度使用特別支援学校及び小学校もしくは中学校の特別支援学級用教科用図書の審議結果について、答申となります。よろしいでしょうか。

事務局から何かございますでしょうか。

事務局 特にございません。

委員長 本日は長時間にわたるご審議、ありがとうございました。
た。

 これをもちまして全ての審議が終了いたしましたので、第2回平成27年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会を閉会いたします。お疲れさまでございました。

この会議の結果の記載に相違ないことを、確認する。

署名委員